

玉之浦地区

福江島の南西部を占める人里離れた玉之浦地区は、切り立った断崖絶壁の長い半島で、釣り針のように海岸に沿って北にカーブしている。この断崖の岩肌は、五島列島の複雑な地質学的歴史を示す豊富な証拠となっている。堆積した褐色の砂岩と黒い泥岩の水平の帯は、白い流紋岩の垂直の線で貫かれている。層状の砂岩は、この地域がかつて大陸の湖か川底であったことを示し、堆積物は水の下に沈殿し、数百万年かけて固まった。その後、1,900 万年から 1,500 万年前に、五島列島がアジア大陸から切り離された際に、地殻変動によって陸地が突き上げられ、引き裂かれた。それから 200 万年から 300 万年後、シリカを多く含む流紋岩質溶岩が古い砂岩を突き破って噴出した。

見どころ

大瀬崎灯台

1971 年に建設され、2009 年に太陽光発電に転換された。島の最西端にある高さ 60 メートルの断崖の上に建ち、東シナ海的大海原を見下ろす。3,700 カンデラの強力なランプは、九州の難所を 20 キロ先まで船を案内してくれる。灯台までの往復約 1 時間のハイキングでは、海を一望できる。また、ハチクマが中国大陆に渡る前の最後の目的地になるため、秋のバードウォッチングの絶好の場所

でもある。

井持浦教会とルルド

五島で最初に建てられたレンガ造りの教会で、1879年に完成した。それから90年後の1987年、台風で大きな被害を受け、取り壊しを余儀なくされたが、翌年再建された。

聖地としての井持浦教会の重要性は、レンガ造りの教会以外にもある。1899年、アルベルト・ペルー神父というフランス人神父が、聖なる泉の湧き出る洞窟に聖母マリアの像が安置されているフランスのルルドの聖地を再現することを決意した。彼は玉之浦をその場所を選び、キリスト教徒の住民が島中から石を持ち寄り、洞窟を建設した。ペルー神父は、今日ここに立っているヨーロッパ風のマリア像をフランスに送った。また、ルルドから水を送ってもらい、井持浦教会の泉に注いだ。今日でも巡礼者たちは、この泉にはその名の由来と同じ癒しの力があると信じて、泉の水を飲みに来る。